平成２３年度
創生授業実施報告書

愛媛大学　教育・学生支援機構
共通教育センター

目　次

前学期

１０２５８　　　歴史の多様性　・・・・・・・・・・・・・・・　1
寺内　浩（法文学部人文学科）

１０２８３　　　異文化へのまなざし・・・・・・・・・・・・　2
田中　寿郎（大学院理工学研究科物質生命工学）

１０３１４　　　くらしと政治・・・・・・・・・・・・・・・・　5
楢林　建司（法文学部総合政策学科）

１０３７３　　　自然の法則・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
中川　祐治（総合情報メディアセンター）

１０３７４　　　自然の法則・・・・・・・・・・・・・・・・・　9
大田　伊久雄（農学部総合政策学科）

１０３８７　　　生命の不思議・・・・・・・・・・・・・・・　１１
山田　寿（農学部生物資源学科）

１０３８８　　　生命の不思議・・・・・・・・・・・・・・・　１３
水谷　房雄（農学部生物資源学科）

後学期

２０２７９　　　異文化へのまなざし・・・・・・・・・・・・　１４
ルードルフ・ライネルト（教育・学生支援機構）

２０２８０　　　異文化へのまなざし・・・・・・・・・・・・　２１
村上　和弘（国際連携推進機構）

２０２９９　　　異文化へのまなざし・・・・・・・・・・・・　2
田中　寿郎（大学院理工学研究科物質生命工学専攻）

２０３１６　　　現代社会の諸問題・・・・・・・・・・・・・　２３
宮崎　幹朗（社会連携推進機構地域創成センター）

２０３５８　　　現代と科学技術
東山　陽一（大学院理工学研究科電子情報工学専攻）・・・・　２５

科目番号：１０２５８　　科目名：歴史の多様性
担当教員：寺内　浩
開講時期：前期　水曜４限　履修者数：２９名

共通教育「創生授業」実施報告書

代表教員　所属　法文学部
氏名　　寺内　浩

1. 授業データ

開講時期　：平成２３年度　前学期
時間割番号：１０２５８
科目名　　：歴史の多様性
授業題目　：四国遍路を学び、歩く
履修者数　：２９名

2. 授業の目的

四国遍路、とりわけ「歩き遍路」がブームになっている。しかし、四国遍路がいつごろから始まり、どのように変化してきたかを知っている人は少ない。この授業の目的の一つめは、こうした四国遍路の歴史を学ぶことである。二つめの目的は、実際に遍路道を歩くことにより、「歩き遍路」の意味を考えることである。交通手段が発達しているにもかかわらず、歩いて札所を巡る人が増えている。その理由を、実際に「歩き遍路」を体験することにより、考えてもらいたい。

3. 授業の到達目標

（１）四国遍路の歴史を知る。
（２）「歩き遍路」を体感し、その意味について思考できる。
（３）「歩く」ことの意味を説明できる。

4. 共通教育の理念・教育方針に関わる項目（対応する項目をチェックして下さい）

■基本姿勢　■コミュニケーション力　□基本技能　□基礎知識　□基礎的思考力

5. 授業概要

授業は講義と実習を組み合わせて進めた。現地実習Ⅰ・Ⅱ（「歩き遍路」）は６月４日（土）、５日（日）に実施し、２日間で約５０Km を歩いた。

6. 授業の進め方と特に留意した事柄

講義を９回行い、四国遍路に関する知識が取得できるようにした。また、ウォーキング実習を２回実施し、現地実習に備えた。二日間に及ぶ現地実習では、支援学生や伴走車を配置し、学生が目的地まで無事歩けるようつとめた。

7. 学生の反応

最終授業時に、この授業で得たものはなにか、をアンケート調査した。（成績評価対象者２５名中２３名が回答）。設問１「今回の授業でなにか得るものはありましたか」については、「大いに得るものがあった」が４名、「得るものがあった」が１８名、「あまり得るものはなかった」が１名、「全く得るものはなかった」が０名であった。また、設問２「今回の授業で得たものは何ですか（複数回答可）」については、①「知識」が１６名、②「体力・健康についての認識」が９名、③「チャレンジ力」が６名、④「忍耐力」が１５名、⑤「コミュニケーション力」が７名、⑥「新たな人生観」が２名、⑦「その他」が１名であった。

8. 到達目標の達成状況

上記のアンケート調査の結果、及び授業終了後に提出したレポートの内容などからみて、到達目標は十分達成していると考えられる。

9. 今後に向けた展開

アンケート調査の結果やレポートの内容を詳細に分析し、授業内容の改善につとめたい。

10. その他（関連資料など）

「平成２３年度歩き遍路レポート集」

科目番号：１０２８３　　科目名：異文化へのまなざし
担当教員：田中　寿郎
　　　　　バージンルーズ・
　　　　　ボグダン・デイビッド・リチャード
開講時期：前期　集中　　履修者数：２３名

共通教育「創生授業」実施報告書

代表教員　所属　工学部
氏名　　田中　寿郎

1. 授業データ

開講時期　：平成２３年度　　前学期
時間割番号：10283
科目名　　：異文化へのまなざし
授業題目　：Issues in Research Today (in English)
履修者数　：31

開講時期　：平成２３年度　　後学期
時間割番号：20281
科目名　　：異文化へのまなざし
授業題目　：Challenges and Issues in Research Today (in English)
履修者数　：23

2. 授業の目的

本授業の目的は、
①英語を用いた講義を提供すること
②英語で考え、議論し、自分の考えを発表する体験をさせること
③教員に、英語で講義する体験をする場を提供すること
④知識を伝達する講義ではなく、学生に自ら考え、議論し、発表させる「アクティブラーニング」のトレーニングの機会を提供すること
などを目的として実施した。

3. 授業の到達目標

You will gain knowledge of what kinds of problems researchers are trying to solve today.
You will be able to increase your English vocabulary.

4. 共通教育の理念・教育方針に関わる項目（対応する項目をチェックして下さい）

☐基本姿勢　✔コミュニケーション力　☐基本技能　☐基礎知識　✔基礎的思考力

5. 授業概要

This will be an omnibus-style class held in English with a different professor from a different field teaching one class each. Students will be introduced to the current challenges and issues in the fields of science, agriculture, engineering, language, political science and economics.

6. 授業の進め方と特に留意した事柄

講義の進め方
①オムニバス形式であるので、講義１週間前までに担当教員に Prep-sheet を作成してもらう。
　ここには、授業の概要、授業までに調べておくこと、考えておくこと、議論すべき点を明記
②この Prep-sheet を Moodle を使って、学生に提示する。
③学生は Prep-sheet を予習に使い、Moodle 上の Forum で、あらかじめ与えられたテーマについて学生や担当教員と議論し、講義までの１週間の間で理解を深めておく。
④講義当日は約 40 分の講義と 40 分の議論やワークショップを行い、講義の内容について、より深い理解を目指す。

⑤講義後、授業についてアンケートに記入する。
⑥授業の中間と期末に、それぞれ印象に残った講義を一つ選び、内容などについてレポート（英文）を作成する。

7. 学生の反応

アンケートの結果を示す。強い肯定が５、強い否定が１として学生が点数をつけ、その平均を示す。

1. I put a lot of effort into this course.（私は努力した。）	3.9
2. I learned in this course.（勉強になった。）	4.0
3. I found the course in general to be interesting.（この授業は全体的に興味深かった。）	3.6
4. The content level was appropriate.（内容の難易度は適切であった。）	2.9
5. The course was well-organized.（この授業はよく構成されていた。）	3.5
6. I would recommend this course to other students.（他の学生にこの授業を薦めたいと思う。）	3.7
7. Moodle was helpful.（ムードルは役に立った。）	3.7
8. The classroom and facilities were good.（教室と設備は良かった。）	4.0
9. The time (Friday 3rd period) was good.（授業の時間帯が良かった。）	3.8

学生の感想

・I study English to go abroad.So, the class may enable me to listen to English much time. If such a class hold again, I want to participate.Thank you very much.
・この授業が一番楽しかった。また受けたい
・この講義を通じて本当にたくさんのことを学ぶことができた。自分の知らないことを知るいい機会となった。英語を通じての理解だったが、理解しようと取り組めたので集中して講義に参加することができた。
・毎回、興味深い授業内容でとても楽しく授業を受けることができた。
・授業の最後のほうはクラスの雰囲気もすごく良くて、楽しかったです。ありがとうございました。
・I'm very satisfied with this class. So if I have chance, I want to take this class again.
・非常に難しい授業でした。
・先生がただ話しているだけのときは少しつまらなかったけど、みんなでディスカッションするときは楽しかった。
・英語で自分の意見を伝えることは難しいときもあったが、楽しく取り組むことができ、充実した時間になった。ありがとうございました！！
・途中からの参加でしたが、この授業を受講して非常によかったと思っています。本当にありがとうございました。
・最初はこの授業で自分はやっていけるのだろうかとかなりの不安を抱えていました。しかし、。授業を通して、英語の楽しさがわかるようになり、積極的に留学生 と話をするようになりました。異文化について深く考えることができ、興味も増えました。楽しく学ぶことができたのが一番良かったと思っています。ありがと うございました。
・毎回、ディスカッションがあったので飽きずに楽しく、協力して出来たのがとてもよかったと思いました。
・とても楽しい授業でした。また、勉強になることが多かったです。この授業をとって本当に良かったです。
・一番好きな授業だった。興味深かった。
・最初は不安だったけど、たくさん友達ができたり、留学生に助けてもらったりして授業が楽しくなりました。
・後になるにつれ楽しんで授業に参加できました。
・大変面白かったです。それぞれの授業でも、先生方のいつもは見えない一面が見えた。また、グループでは英語でコミュニケーションをすることで、うまくいかな かったり、うまくいったりと、その不自由さによって、グループの話し合いが盛り上がったり、まったく前に進めなかったりと、通常の授業にはない体験ができ た。ほかにも、交換留学生の真面目に取り組む姿勢や話し方など、ほかの生徒に刺激があったと思う。日常に英語を取り入れる、始めの一歩になった。ありがとうございました。

8. 到達目標の達成状況

学生のアンケート結果から、十分に目標を達成できたと考える。

9. 今後に向けた展開

共通教育科目として、英語を用いた講義を試行している。学生の学ぶ意欲にこたえることができていると思われる。創生授業として開講して 3-4 年になる。学生の英語で学びたいという欲求を強力に感じるとともに「アクティブラーニング」を体験した学生の成長を目の当たりにすると、そろそろレギュラー科目として、実施できるよう体制を整えて頂きたいと感じている。

科目番号：１０３１４　　科目名：くらしと政治
担当教員：楢林建司
開講時期：前期　火曜１限　　履修者数：３０名

共通教育「創生授業」実施報告書

代表教員　所属　法文学部
氏名　　楢林建司

1. 授業データ

開講時期　：平成２３年度前学期
時間割番号：１０３１４
科目名　　：くらしと政治
授業題目　：難民問題についてのワークショップ
履修者数　：３０名（うち附高生６名）

2. 授業の目的

難民問題を題材として、「弱者」とされる人々と主体的に関わるために必要な基本的素養を身につける。

3. 授業の到達目標

１　難民問題につき、ごく基礎的なレベルで、知識と情報収集能力を身につける。
２　難民のおかれている状況を理解し、対等な人間として、彼らに学びながらそのニーズに応えようとする姿勢を身につける。
３　ニーズに応えるため具体的に何をなすべきか、他者と協力し多角的に検討しながら立案する基礎的な能力を身につける。
４　自らの考えを魅力的かつ説得的に発表するための基礎的な技法を身につける。

4. 共通教育の理念・教育方針に関わる項目（対応する項目をチェックして下さい）

□基本姿勢　■コミュニケーション力　□基本技能　□基礎知識　■基礎的思考力

5. 授業概要

１　　ガイダンス
＊歓迎のあいさつと担当者自己紹介／授業の枠組みや方法の説明／事務的事項の処理
２　　ウォーミングアップ
＊受講生の自己紹介／ワークショップについての説明／難民の写真を見て感じたことや考えたことを、グループ毎に漢字１文字で表し、理由を付して発表する。
３　　難民について見る・聞く
＊難民の現状をとりあげたビデオを視聴し、グループ毎に質問や感想をまとめて発表する。
４　　難民に関する基礎知識
＊グループワークで、難民に関するごく基礎的なクイズに取り組んだ後、得られた知識から何を感じるか考えるかをまとめて発表する。
５　　難民問題に対する国際社会の取り組み
＊難民条約や国連難民高等弁務官事務所の活動に関するレクチャーを聞き、難民を取り巻く国際社会の現実について考える。
６　　日本の総理大臣への書簡案を作る
＊国連難民高等弁務官事務所（ＵＮＨＣＲ）への協力強化を要請するための総理宛の書簡案を作る。
７　　日本の難民受け入れ体制
＊日本の難民受け入れ体制を他国と比較しながら、難民受け入れに関する様々な課題について考える。
８　　ディベート準備
＊難民に関する具体性のある問題を課題として示し、簡単なレクチャー、ブレインストーミング等を行った後、グループ毎の打ち合わせをする。
９　　ディベート
＊前回示した課題につき、ディベートを行う。
１０　子どもである難民の教育面におけるニーズの把握

＊難民キャンプにある学校の実践例等を参考にしつつ、子どもである難民の教育面でのニーズについて、グループ毎に考えて発表する。
１１　子どもである難民向けの学校作りに関する骨子立案
＊前回の成果をもとに、難民である子どものための学校作りの計画の骨子を、グループ毎に考えて発表する。
１２　子どもである難民向けの学校作り計画の発表準備
＊発表に向けて、グループ毎に準備をする。
１３　子どもである難民向けの教学校作り計画の発表（１）
＊できれば開かれた場で、グループ毎にプログラムを発表する（３グループ分）。
１４　子どもである難民向けの学校作り計画の発表（２）
＊できれば開かれた場で、グループ毎にプログラムを発表する（３グループ分）。
１５　まとめ
＊受講者各自が自分なりのまとめを口頭で発表し、レポートとして提出する。

6. 授業の進め方と特に留意した事柄

今回は高大連携科目の「フリーサブジェクト」にも当たっていたので、高校生もグループワークにとけ込みやすいように、例年より柔らかい雰囲気作りに心がけた。また、「中間期ふりかえり」の実施やミニミニレポートに対する個別レスポンスなど、様々な形での受講生とのコミュニケーションに力を入れた。

7. 学生の反応

学年を超えた受講生間のコミュニケーションは、概ねよくとれていた。なかには、グループワークを引っ張る高校生まで現れて驚いた。

8. 到達目標の達成状況

全体として、概ね達成することができた。特に到達目標のうち３にある「他者との協力」という点については、毎回のグループワークにおいてかなりできていたと感じる。

9. 今後に向けた展開

今年度と２０１２年度の経験を踏まえ、１３年度以降、高校生の受入数を増やすことを検討したい。

10. その他（関連資料など）

科目番号：１０３７３　　科目名：自然の法則
担当教員：中川祐治
開講時期：前期　集中　　　履修者数：１６名

共通教育「創生授業」実施報告書

代表教員　所属　総合情報メディアセンター
氏名　　　中川祐治

1. 授業データ
開講時期　：平成２３年度　前学期（集中）
時間割番号：１０３７３
科目名　　：自然の法則
授業題目　：ネイチャーゲーム
履修者数　：１６名

2. 授業の目的
環境教育の一分野である自然認識学の立場から、五感を使って自然を直接体験することで自然を共に分かち合うことを学ぶ。

3. 授業の到達目標
（１）ネイチャーゲームの目的を説明することができる。
（２）自然を直接体験する活動に参加することができる。
（３）新しいアクティビティを創作し実施することができる。

4. 共通教育の理念・教育方針に関わる項目（対応する項目をチェックして下さい）
□基本姿勢　■コミュニケーション力　□基本技能　■基礎知識　□基礎的思考力

5. 授業概要
ネイチャーゲームは、1979 年米国のナチュラリスト、ジョセフ・コーネル氏により発表された五感を使って自然を直接体験するプログラム（野外活動）である。ネイチャーゲームの目的は「自然への気づき（Nature Awareness）」で、「自然への気づき」とは五感で自然を感じ、体と心で直接自然を体験することによって、自然と自分が一体であることに気づくことである。授業では、ネイチャーゲームのアクティビティを屋外で実際に体験するとともに、理論的背景を講義する。

6. 授業の進め方と特に留意した事柄
・ 受講生は Facebook に登録し、事務的連絡や参加学生同士の情報交換に利用している。
・ 初日の夕食を野外炊飯とすることで、受講学生の交流を図っている。
・ 大洲青少年交流の家のフィールドを有効に使うため下見を含めた事前準備を綿密に行っている。
・ 教室での講義と野外活動を交互に行うことで、緊張感を保ちつつネイチャーゲームを体験することができるようにした。

7. 学生の反応（最終日の自由記述アンケートより抜粋）
・ 授業では、本当に自然と一体になるような野外活動など、普段なかなか経験できないような貴重な体験を数多くすることができて、とても充実した３日間を過ごす事ができました。
・ 私はネイチャーゲームに好印象ではなかったのですが、参加して友だちも増え、昔のように自然に触れることができて、思いのほか楽しかったです。
・ 教員を中心に、安全対策に力を入れていただいていたため、活動する際も非常に安心感をもって動くことができた。
・ ネイチャーゲームのアクティビティを通して、自分の知らなかった自然のすごさ・素晴らしさを発見させてもらえた。
・ この講義は全員とコミュニケーションを取る機会がたくさんあるし、ゲームの内容もとても面白く、盛り上がりました。
・ 本当にこういう経験をさせていただいて何かが変わった気がします。また機会があればこのような体験をしたいと思います。
・ ネイチャーゲームで一番大切なことは「気づく」ことだと学んだが、本当に自然や人に対する気

づきがいっぱいあった。

8. 到達目標の達成状況

受講した学生たちは、ネイチャーゲームを通して自然に直接触れ、その豊かさを体感した。また、最終日には新しいネイチャーゲームを創作し、それを実施することでコミュニケーション力も養う事ができた。

9. 今後に向けた展開

毎回、抽選を行ない受講生を決定しているが、やる気のある学生が説明会に集まっているので、可能な限り受け入れたい。

10. その他（関連資料など）

特になし

科目番号：１０３７４　　科目名：自然の法則 担当教員：大田　伊久雄 開講時期：前期　集中　　　　履修者数：３２名

共通教育「創生授業」実施報告書

代表教員 所属　　農学部 資源・環境政策学コース
氏名　　　大田 伊久雄

1. 授業データ

開講時期　：平成 23 年度　前学期
時間割番号：10374
科目名　　：自然の法則
授業題目　：日本の森から世界の森へ　―持続可能な森林・林業そして社会とは―
履修者数　：32 名

2. 授業の目的

森林の効用は大別すると，地球環境改善機能，地球環境保全機能，地域環境保全・改善機能，人間性回復機能等に分けられる。21 世紀の資源・環境問題を考えると，森林・木材の位置づけは新たなものとなる。特に，二酸化炭素吸収固定性や石油代替性，人間性回復等の機能が重要視されるようになってきた。もっとも，森林はこれらの機能を個別に持つのではなく，併せ持っていることを認識することが大切である。この授業では，これら森林の多くの機能を演習林における野外活動を通して理解し，日本そして世界規模の資源・環境問題の解決策を追求することを目的としている。

3. 授業の到達目標

・ 日本および世界の森林の現状と課題について理解することができる。
・ 森林踏査を通して，森林のもつ多様性について調べ，理解することができる。
・ 林業施業を通して，森林管理の重要性を知る。
・ 林内での作業を通して，仕事の道具を使えるようになる。
・ 森林・資源を維持・収穫するのに必要な労力を自ら経験し理解することができる。
・ 共同生活を送る上でのルールを体得することができる。
・ グループワークを通してコミュニケーションのスキルを身につけることができる。

4. 共通教育の理念・教育方針に関わる項目（対応する項目をチェックして下さい）

□基本姿勢　■コミュニケーション力　■基本技能　■基礎知識　□基礎的思考力

5. 授業概要

履修者はワーキンググループに分かれて，2 泊 3 日の日程で森林・林業体験をとおしてトピックに関連した講義と実習に参加する。最終日には，グループごとに成果を発表する。

前半：農学部附属演習林実験林内の踏査を行い，人工林と天然生林の相違，森林植物等の生物多様性についての観察と地図読みスキルの獲得。

中盤：同実験林内にて，人工林の保育に必要不可欠な森林施業（下刈り・枝打ち・間伐）を体験し，人工林の維持管理に必要な技術を体得する。

後半：実習中に体験した事柄と，日本および世界の森林の現状について講義から得た知識をベースに，各グループに与えられる森林問題をテーマにした課題についてその問題の解決方法についてグループワークを行い，その成果の発表とその結果を受けたディベートを実施する。

6. 授業の進め方と特に留意した事柄

農学部附属演習林に泊まり込んでの 2 泊 3 日の集中講義であり，昼間は森林踏査や森林施業，夜は講義とグループ学習というかなりハードなスケジュールとなっている。夏の森林内にはマムシやスズメバチなど危険な動物も多く，また学生達が日常生活ではあまり体験しないような急峻な斜面を登る場面も少なくない。この授業では，まず初めにそうした危険に対して自ら五感を使って察知し回避する心構えを教える。野外活動中は，教員・技術職員・TA の連携を密にしつつ，体力的に厳しそうな学生には十分なサポートをするよう心がけた。

講義では，全体を 4 つのグループに分けた上でそれぞれに課題を与え，ディスカッションを通して自分達で考えることに重点を置いた。初日および 2 日目の夜を準備期間として，最終日にはグループ対抗

のディベートを行い，学習成果の可視化を試みた。

さらに，講義終了後 3 週間後までにレポートの提出を義務付け，授業で体験し学んだ森林・林業に関する知識を再確認する機会を与えた。

7. 学生の反応

森林という存在に対する見方が大きく変わったという感想を述べる学生が多かった。これはある程度予想された反応ではあったが，現代の大学生がいかに自然体験に乏しいのかを示しているという意味では問題である。授業内容に関しては，肉体的にきつかったという意見が大半を占めたが，やり遂げた達成感に言及する学生も多かった。グループでの学習についても，他学部学生の自分とは違った考え方に触れられた点や，他人と協力し合いながら主張をまとめ上げていくプロセスなどに対して好感触を持った学生が多いようであった。

8. 到達目標の達成状況

わずか 3 日間の集中講義で，到達目標に掲げたすべてが容易に達成できるはずはないが，学生達の意識の変化には大きなものがあり，特に 1 回生の受講が多いことを考えると今後の大学生活の中で生かしていけるヒントになるものを得ることができたのではないか。具体的には，森林管理技術の重要性，世界の森林問題への視点，人と自然との関係性，グループでのコミュニケーションの方法などである。

9. 今後に向けた展開

毎年授業の最後に，この授業は今後とも続けていく値打ちがあるかどうかを尋ねているが，ほとんど例外なく続けるべきだという回答が得られる。ただ，農学部附属演習林では農学部生を対象にした実習や公開講座など夏期休暇中の授業が多く，この授業にかかる労力（日程調整・事前準備・教員と技術職員の負担・食事の手配等）は少なくない。開講時期も含めて今後の授業形態には検討すべき点が少なくないが，学生からの期待の声（後輩にもぜひ受けさせたい･･･）は重大に受け止めている。

10. その他（関連資料など）

松山大学との単位互換授業に指定されているが，2 年を経てまだ実績がないのは残念である。

科目番号：１０３８７　　　科目名：生命の不思議 担当教員：山田　寿 開講時期：前期　金曜３限　　履修者数：２８名

共通教育「創生授業」実施報告書

代表教員　所属　農学部生物生産システム学コース
氏名　山田　寿

1. 授業データ

開講時期　：平成２３年度前学期
時間割番号：１０３８７
科目名　　：生命の不思議
授業題目　：果物の栽培
履修者数　：２８名

2. 授業の目的

果物は食生活に欠かせない身近な食品であるが、多くの学生は果物の持つさまざまな機能性や高品質果実生産のための農家の栽培技術については十分な知識を持ち合わせていない。本授業では、果物に対する学生自身の興味や疑問をテーマとして、植物生理学や果樹園芸学を基盤に果物の魅力や重要性を理解する。

3. 授業の到達目標

生活習慣病を予防するためには果物や野菜の摂取の重要性が明らかになっているが、現在の日本では若者の果物消費が極めて低い状況にある。本授業では、店頭に並んでいるさまざまな果物に関する疑問を一つ一つ自分で調べて発表し、質疑応答や教員の補足説明を通じて内容を深めるとともに、生産者の努力にも目を向けながら健康食品としての果物の魅力や重要性を理解する。また、授業を通じて課題発見や課題解決、プレゼンテーション、コミュニケーションの各能力を身につける。

4. 共通教育の理念・教育方針に関わる項目（対応する項目をチェックして下さい）

☑基本姿勢　☑コミュニケーション力　□基本技能　☑基礎知識　☑基礎的思考力

5. 授業概要

「果物」と「栽培」をキーワードとして、学生自身が日頃から興味や疑問を持っている事柄をテーマとして設定し、各自が調査・学習した上で、授業内で発表する。他の学生や教員との討論を通じてその内容を深める。

6. 授業の進め方と特に留意した事柄

第１回目：学生と講義の進め方について打合せ
教員から授業の目的と到達目標を説明し、目標達成のための授業の進め方について教員のアイデアを提示した。その中で強調したのは、「本授業は学生が主役で自らが作り上げるものであり、他の学生のプレゼンテーションや教員の補足説明に対する質問は授業への積極的な参加と見なして加点評価する」点である。また、「本授業は教養科目なので、とにかく楽しく学ぶ」点も合わせて強調した。それらを理解させて上で、「果物」と「栽培」をキーワードとして学生が日頃から興味や疑問を持っている複数の課題を提出させた。全課題を板書し、内容の重複を避けながら、各学生の担当テーマを２つずつ決定した。
第２回目：教員が作成したプレゼンテーションのスケジュール案を配付するとともに、前回の欠席者等への再度の説明と課題抽出、スケジュール表への組み入れを行うとともに、学生の都合等を考慮した修正を行って、スケジュール表を確定した。
第３回目：最初の発表学生の準備期間を確保するために、教員によるプレゼンテーション例を披露して質疑応答を行った。
第 4 回～15 回目：発表予定の 4 日前までに発表内容のレジメをメールの添付ファイルで提出させ、配付資料や補足説明の準備をした。スケジュール表に基づいて毎回 2, 3 名ずつプレゼンテーションを（紙媒体またはパワーポイント）行い、質疑応答によって内容を深めた。ここで留意した点は、できるだけ楽しく学べる雰囲気を醸成して学生からの積極的な質問を引き出したことである。また、優れた発表や

質問には褒め言葉をかけるとともに、間違いの訂正や補足説明に当たっては、専門用語を避けてできるだけ平易な言葉を使うように心がけた。

7. 学生の反応

各プレゼンテーションに対して学生から多くの質問が出され、発表者も可能な限り答えるよう努力した。その上で、最終的には教員から現時点での学術的知見を中心に補足説明を行った。教員の説明に対してもさらに質問が出されるなど、知識習得への積極的姿勢が見られた。

授業アンケートを見ても、教員とのコミュニケーションや満足度などに対して高い評価を頂いたと理解している。

8. 到達目標の達成状況

個人差はあると思うが、多くの学生が目標を達成できたと思われる。学生や教員を前にプレゼンテーションした経験は少ないし、授業の中で積極的に手を上げて質問する習慣が日本の学生にはないことから、本授業のやり方は学生にとっても新鮮で効果的だったと考えられる。授業アンケートからも、これらの点は十分にうかがえた。

9. 今後に向けた展開

果物は学生にとっても身近な存在なので、課題設定が比較的容易であり、基本的には同様の方法で効果的な教養教育が可能である。一方で、ほとんどの学生がプレゼンテーションの準備学習でインターネットの情報を利用するが、間違いが多い膨大な情報の中から正確なものを選択する能力の向上が課題と考えられる。

10. その他（関連資料など）

特になし。

科目番号：１０３８８　　科目名：生命の不思議
担当教員：水谷房雄
開講時期：前期　集中　　履修者数：３０名

共通教育「創生授業」実施報告書

代表教員　所属　農学部
氏名　　水谷房雄

1. 授業データ

開講時期　：平成　23　年度　　前学期集中
時間割番号：１０３８８
科目名　　：生命の不思議
授業題目　：農に親しむ
履修者数　：30 名（内１名欠席）

2. 授業の目的

農業の多面的な機能が注目されている。農業は単に食糧生産に重要な役割を巣たしているばかりでなく、保水機能、災害防止、景観保全にも大きな働きをしている。普段は農案にあまり馴染みのない農学部以外の学生に夏休みの期間中に開講するもので、土に触れ、農作業の体験を通じて、農の重要性を理解し、農に親しむことができるようになることを目的としている。到達目標は農の理解への一歩前進。

3. 授業の到達目標

1. 農作集を飢で感じることができる。
2. 農業の重要性が理解できる。
3. 農集と環境の関わりが理解できる。

4. 共通教育の理念・教育方針に関わる項目（対応する項目をチェックして下さい）

■基本姿勢　□コミュニケーション力　□基本技能　■基礎知識　□基礎的思考力

5. 授業概要

農学部附属農場で夏期休業中(9 月中旬から下旬)に 2 泊 3 日で集中的に行う授業である。昼間は５名の教員が半日ずつ担当し交代して行う。１日目の夕方には餅つきも行う。実習内容の説明をしてから、フィールドでの実習を実施する。さらに、夜間は２名の教員が 19 時から 90 分間、『私の研究と農業生産』と題した授業を行う。

6. 授業の進め方と特に留意した事柄

講義の時間を短くし、体験実習の時間が多くとれるように配慮した。

7. 学生の反応

農学部以外の学生を対象としているため、初めて農作業を体験する学生も多く、農学部の学生に比べて授業に取り組む姿勢や眼の色がちがう感じがした。授業の最後に書かせた感想文でも、良い体験ができたという意見が多く寄せられた。

8. 到達目標の達成状況

農作業をしたことのない学生が多い中で、少しでも農作業の大変さが体験できたのではないか。その意味では農の理解への一歩前進という目標は達成できたと思われる。今回は台風１５号の影響で、フィールドでの実習が十分できなかった点が残念であった。

9. 今後に向けた展開

本講義の担当教員の責任者が来年度定年退職なので、引き続いて附属農場を利用した創生授業が展開できるように十分な引き継ぎをしたいと考えている。

10. その他（関連資料など）

特になし。

科目番号：２０２７９　　科目名：異文化へのまなざし 担当教員：ルードルフ・ライネルト 開講時期：後期　月曜１限　　　履修者数：２７名

共通教育「創生授業」実施報告書

代表教員　所属　教育・学生支援機構
氏名　ルードルフ・ライネルト

1. 授業データ

開講時期　：平成２３年度　後学期
時間割番号：20279
科目名　　：異文化へのまなざし［A Look at Foreign Cultures］
授業題目　：外国の現状を日本に広める(Informing Japan about foreign countries)
-第二外国語/未習外国語を目的語とする国を愛媛県民･企業などに広める-(Informing Ehime and its businesses about countries with other target languages)
履修者数　：27 名

2. 授業の目的

1.始めに、学生は英語以外の外国語（ドイツ語）の初歩を３つの観点（目的語のコミュニケーション、人間情報交換、数字という三つの観点）から学ぶ。
2.学生はその国についての情報等取得方法を学んでから、実際に調査を始める。
3.学生は学んだドイツ語、及び調査したドイツについての情報を取捨選択し、それらを愛媛県民及び企業などに紹介する。
4.学生は紹介した結果（反応、手応えなど）を報告書として作成し、フォローアップを試みてから、全体についての簡単な分析を行う。

3. 授業の到達目標

この授業を受けた学生は、未習外国語の初級段階が身につく上、その言語を母国語とするその国の自画像をある程度理解することができる。更に、その国の現代の特徴を知ることで、愛媛県民、及び企業にそれらの要点を紹介したり、分析したりすることができる。

4. 共通教育の理念・教育方針に関わる項目（対応する項目をチェックして下さい）

□基本姿勢　■コミュニケーション力　■基本技能　□基礎知識　□基礎的思考力

5. 授業概要

前半：　英語以外の外国語(ここではドイツ語)の初歩の表現を学ぶ：目的語のコミュニケーション、人間情報交換、数字という三つの観点から入って、４技能を使いながら挨拶、紹介、評価、などのドイツ語基礎知識を学び、且つ応用しながら、ドイツの文化を見る。

中盤：　ドイツ語の能力を広げながら、ドイツについての知識を深め、日本に紹介するべき点についての調査方法を学び、それらを愛媛県民･社会に紹介するように準備する。

後半：　具体的に大学と社会の連携を深めるため、県民、企業・法人などにドイツの情報等を学生一人一人が実際に紹介をする。その後、それについての報告を作成する。その報告書についての簡単な分析を行い、日本における外国文化紹介の意義について再考する。

6. 授業の進め方と特に留意した事柄

シラバス（授業案内）と受講生の希望（初回アンケート）の両方に沿うために、次のような流れになった：
シラバス　（愛大 HP）－＞初回アンケート（追加１）　－＞　（以下の詳細は報告書（長い方）参照）両方に合うように改善　－＞　ドイツ語会話と資料を自立に探す―＞　ドイツの都市について調べる＞　真の国際体験（可愛くない面も含めて）―＞　会社など訪問　（記入のため外部**サーバーを用意、**報告書の書き方、評価の仕方。。）　―＞　報告　－＞ピアー評価　－＞　ドイツ文法〔一通り、名詞変化１と４格,動詞変化現在、過去分子、過去形のみ〕－＞ドイツにおける簡単な場面＞自己紹介＞（資料

無しで）目的言語の母国語話者との会話による口頭試験２分＞筆記

7. 学生の反応
—授業内容及び形式などが 5－15 分ごとに変わるにもかかわらず、途中で寝る学生がいる　（授業は月曜一）。
－隣の人と会話がとれない・とらない学生はいるが、相手を指定すればきちんと練習する場合がある学生がいる。
—自立に補助教材メディアを使用するのを求めすぎたこともあった。
—真の異文化体験（可愛くない面も含めて）
—シラバスどおり：**愛媛県民及び企業などに紹介する（県に関係ない）**
—教員とドイツ語で話をしない（が一部は口頭試験で他のドイツ人とドイツ語で上手く話した）受講生がいる。
—字・発音関係の固さ及び英語との違いは不愉快に感じる受講生がいる。
—再履修として取ったと思われる受講生が早い段階で諦めたため、受講生数は 9 週間目で 27 名から 10 名に減少した。
—週一時間でも教員が用意している授業ファイルを見ない(中間アンケートから)受講生にとって、授業が難しいと感じるのは当然だと思う。

8. 到達目標の達成状況
目標設定したもの、つまり、口頭試験、訪問、報告書は出来た。また、受講生は Moodle など補助的な教材メディアを目的に合わせて使用することがある程度できたと思う（ライネルト研究室開発無記名アンケートにより）。
回アンケートに記入していただいたようにドイツ語を学んで、文化及び習慣に触れても、受講生本人が口頭でドイツ語会話を授業中 4－5 分（試験 2 分）出来ても“あまり満足していない”及び後輩に“推薦したくない”受講生が多い。
外国語学習の方法・習い方など様々な事を紹介した結果、（外国語）ドイツ語口頭中心でもないのに、受講生は母国話者を相手にして、または後者によって評価を受け、そして素晴らしい結果を出した。試験では資料なしでドイツ語で（スカイプ経由及び滞在ドイツ人と）2－3 分話せるようになった(ことをアンケートに言及する受講生もいる)。
全体としてみたら。。。
憲章に上げた“安心”は外国語習得には存在しないので、その面を基準とすると、この授業は失格であった面もある。

9. 今後に向けた展開
—シラバスと受講生の希望の両方に沿うのは難しい。
—改善点が多くあるもののレベル及び難しさは適切に近いように見える(中間アンケートから)
—つまらない訳読と訪問（可能か？）だけ又は会話だけ（初回アンケートのように）にしたほうがよさそうに見える。
—文化についての内容は少し増やすべきであろう(初回アンケート及び研究室期末アンケートから)
—受講生の意見では“文化について習う事が出来た。ドイツへの興味を持った”と“ドイツの地理について習っていない“の極端に分かれる。異なる意見があったので実験的な部分を貫くしかないが、基本（この場合ドイツ語会話）とその様子を正しくすると、少なくとも客観的（実証できる）結果となる。
—10 回目でも ich を書けない及びその後でも呼びかけに Sir を使用する受講生がいるので要求する学習内容を変えるはずであろう。
ライネルト研究室開発無記名アンケートにより全体表記に答えた五人はあらゆる面に言及し，良かった様な意見をあげた。そのため具体的な改善点を決めるのが容易でない。

10. その他（関連資料など）追加資料１－１２。ここで各追加資料の例だけを挙げる。詳しい報告または教授法については Long Version（長編）を参考するか教員に問い合わせる：reinelt.rudolf.my@ehime-u.ac.jp。

追加 1:初回アンケート
＜初回アンケート＞
○この授業で習いたいものは何ですか
・ドイツの文化。特に食や衣について習いたい。
・豊富な異文化の知識。諸外国での体験談。
・母国以外の文化

・ドイツ語の会話。ドイツの文化やその他ドイツのいろいろなことについて。
〇これを達成したら満足します
・ドイツの芸術や文化をある程度しること。
・基本的なドイツ語の会話表現とある程度のドイツに関する知識
・わからない。
・ドイツの文化をある程度理解したい。
・ドイツ料理、食べれたら満足！！！
・ドイツ語が少し話せるようになる。
〇これはこの授業ではやりたくない
・難しいドイツ語の勉強とテスト
・ドイツ語について
・特になし　4 名
・ドイツ語の難しい文法、たくさんの宿題
・フィリピン語
・90 分丸々講義
・プレゼン
・テストたくさん
・家でやらなければならない大量の宿題
・専門的すぎる歴史

追加 2: Moodle から

- 重要案内：異文化へのまなざしー単位条件についてー 2 月 1 日掲載 リソース
- 会社訪問についての詳しい説明はこちら Word 文書
- ニュースフォーラム
- ドイツ旅行の評価については、課題の欄にある「ドイツ旅行評価ファイル」をダウンロードして記入してください
- Server Eintraege und Beurteilung Word 文書
- HA 報告書についての評価 Server und Eintraege Word 文書

＜授業ファイル＞

- NEU Unterrichtsfile 4 2 2012 mit HA

追加 3. Moodle の中にある　授業ファイルから

Unterrichtsfile Mo1 創生：異文化への真奈差し

1. Mal
3.10.
27 da

links/rechts/vorne/ hinten:
Nach links bitte
selbst

1. Kursvorstellung (ppt.)

2.
2. 1. Guten Morgen
2. 2. Wie gehts? I
2. 3. Ich heisse/komme aus/wohne in

2.4. Zahlen 0-9
2.5. bitte - danke
2.6. Tschuess (beide)
----

2. Mal
11.10.
24 da

Partner: schraeg 斜め, anderer 違う人

Wh

Guten Morgen – Guten Tag

Wie gehts?:

Variationen:
fantastisch
sehr sehr gut
sehr gut
danke gut
es geht
nicht so gut
gar nicht gut
schlecht

Anfangsgespraech 初回会話
Wie heissen Sie? RR
Woher kommen Sie? aus D
Wo wohnen Sie? in H
Was machen Sie? Ich bin Lehrer/Student

Ich studiere Medizin/ Jura/ Paedagogik/ Allgemeine Politik/ Humanwissenschaften

Zahlen II
10-12
13-19
20-99

Offenes Gespraech （オープン会話）

Was machen Sie in der Freizeit?
Ich spiele Gitarre/Tennis
Ich höre Musik

Ich laufe
Ich sehe Filme

Lesen, Schreiben, Buchstaben
読む、書く、文字の由来
Namen der Buchstaben/ Alphabet: A B C...
noch nicht geuebt

Spacing: Eigentlich 2 Wochen

LMS, Moodle, e-mail
HA 宿題 Moodle sehen
HA 宿題: Mail schicken
Titel: Guten Tag von X Y
Bis 14.10. 12:00

Dritte Person
Wie heisst er?

追加 4. Active Mail で用意したメール受信学生番号で個人情報が入っているためここで言及不可能。必要であれば教員までご連絡ください。

追加 5.中間アンケートから

Q7 この授業の良い点等について教えて下さい。

回答
生徒が自学自習しないと授業内容に追いつけないように設定している所。ほかの授業ももっと厳しくてもよいと思う。
会話をとても重視していて、今までの外国語学習と違うところ。
とくになし
大好きなドイツ語が学べるのが楽しいです。

追加 6. Deutschlandreiseドイツへの旅（出発から到着、観光、Google Earth、交通手段、旅費）
Meine Stadt (私が調べた)ドイツの都市へ
学生番号など個人情報が入っているためここで言及不可能。必要であれば教員までご連絡くださ

追加 7. 会社訪問の報告書（サーバーの中身）の一例

３時半から３５分まで、重信シネマにて、Ｙさんとドイツの映画史について話しました。 ドイツの映画の歴史は深く、１８９５年頃にはじまりました。. 大戦期、映画はしばしば戦争のために利用されていました。　しかし１９８０年代には「ネバーエンディング・ストーリー」など日本でも有名な映画が作られました。**社員の矢野さんと話しました。とても真面目に聞いてくれて、感心してくれました。**	Die Geschichte des deutschen Filmes fing ungefähr 1895 an Für die Weltkriegsperiode wurde der Film oft für Krieg benutzt. Aber, in 1980 berühmter Film wurde wie 「 Die unendliche Geschichte」. Ich spreche mit Y. Er hörte es sehr ernsthaft und bewunderte.	A	

追加 8.レポートの評価（評価質問のリストと古い例；詳しい例は Long Version 長編参照）。

Kriterien 基準	Bericht（報告書) _F_	日本語のヒント	Antwort（役 RR)	Kommentar コメント
Zum Bericht insgesamt		(報告全体について)		
Inhalt klar?		内容について	５ 最高	Wirklich süß.河合
Deutsch: Ist die Uebersetzung klar		報告のドイツ語は？	Ja はい	Fast verstehe ich mit ein wörterbuch.辞書で分かる
Wohin ist der Student gegangen?		職種	Zu eine Hochyeits firma.(結婚式場)	Gute Wahl.良く選んだ
Bezug zu Deutschland:		ドイツとの関係	?（Deutsch kulture in der Hochzeit)ドイツの結婚式	?
Was hat er/ sie mitgenommen?		提供したまたは持って行ったもの	Deutsche Kultur bei der Hochzeit. ドイツの結婚式の付属品.	aGute Wahl.良く選んだ
Was war das Thema?		話の中身は何でした	Die Hochzeitszeremonie 結婚式	Attraktiv und interessant. 魅力で面白い
Wie war das Gespräch?		話はどうでした	Erfolgreich 成功した	Glückwünsche
Atmosphäre		雰囲気	Sehr gut.大変良かった	Sehr nett 大変良い
Ergebnisse		結果	Neu für Manager und sehrgut.マネジャに新しく大変良い情報を提供した	Sehr sehr gut.最高

Wie war das Gefühl der Beteiligten nachher?	事後、参加者本人の気持ちはどうでした	Positiv 積極的	Sehr gut. 大変良い
Zum Bericht selbst: Leserfreundlich?	この報告書について:読みやすいか？	Ja, wenn habe ich ein Wörtenbuch.辞書を使うとはい	Es wär mit Vergangenheit und schwierig. 過去形で書いてあるので難しい
Gesamtergebnis	総合評価	5 最高	Sehr gut.大変良い
Ist er/sie wirklich hingegangen?	報告者は本当に話しに行きましたか	Ja, denke ich so. 本当に行ったと思う	Sympathisch.同情（？？R）
Wurde die Aufgabe (Besuch, Materialvorstellung, Gespräch, Bericht) erfolgreich gemacht/bearbeitet?	課題（訪問・資料提供・話・報告)の達成度	Sehr gut. 大変良かった	
Eine Mitteilung für den Verfasser (Kommentar, Verbesserungsvorschläge, usw.)	（コメントまたは改善のための）（報告の）著者へのメッセージ >	Über die Hochzeitzeremonie möchte ich auch wissen. 私もこの結婚式について知りたい。	（評価者の名前；通報せず）Ich heiße ___________ ____________

追加 9.Moodle および Active メールな使用についてのアンケート全体は LongVersion にあります
自由記入から：

意見　Skype を使う点がとてもいいと思います。新鮮だし楽しかった！ノートを取らないので学校では会話、家では記述がよく学べました。
板書をしてほしかった。そしてノートを取る時間がほしかった。
ドイツ語が少し話せるようになって良かった。
ドイツ語難しい！！

追加 10. 口頭試験：ドイツ人との会話
研究・評価の証明およびバランスや教育目的としてカメラ撮影をしている。そのためだけに観照が可能である。

追加 11. 筆記試験
最低点は 13 点、最高点は 172 点。幅が非常に広い。
個人情報が含まれているため公開が不可能であるが、必要に応じて研究のために匿名化したバージョンを作れる。

追加 12. 諦めることは moodle の日参考率で分かる。
　個人情報が含まれているため公開は不可能で取り扱は注意が必要。

科目番号：２０２８０　　科目名：異文化へのまなざし
担当教員：村上　和弘
開講時期：後期　月曜３限　　履修者数：２３名

共通教育「創生授業」実施報告書

代表教員　所属　国際連携推進機構
氏名　　　　村上　和弘

1. 授業データ

開講時期　：平成２３年度　後学期
時間割番号：20280
科目名　　：異文化へのまなざし
授業題目　：共生世界で暮らすために--留学生支援を題材として—
履修者数　：23 名

2. 授業の目的

１．留学生支援に関する基本的な知識を習得することを通じて、
２．文化・社会の多様なあり方についての認識を深め、
３．自己・自文化・自社会のあり方について再検討する。
４．自らの生き方として「共生世界」を捉える視点を獲得する。

3. 授業の到達目標

日本語教育を含む、留学生支援に関する概要を理解し、説明できる。
日本語教育を含む、留学生支援に必要な最低限の知識を習得し、説明できる。
留学生支援に関する諸問題を「自らの問題」として捉えなおし、見解を表明できる。

4. 共通教育の理念・教育方針に関わる項目（対応する項目をチェックして下さい）

■基本姿勢　□コミュニケーション力　□基本技能　■基礎知識　■基礎的思考力

5. 授業概要

教員３名による共同運営方式を取る。講義および演習形式を併用し、随時グループワークを行なう。
第 1～2 週は、留学生・定住外国人の現状、および支援の現状とあり方について概要を把握する。
第 3～5 週は、留学生支援の大きなトピックである「日本語」教育について概要を把握する。
第 6～7 週は、実践的スキルとしての「外国人に分かりやすい日本語」について学ぶ。
第 8～10 週は、言語を含む「文化」概念に視野を広げ、日本文化を題材として文化理解について考える。
第 11 週は、留学生・定住外国人支援の現状とあり方について、自らの問題として可能な方法を考える。
第 12～15 週は、それまでに得た知識を元に各自がテーマを決め、発表を行なう。

6. 授業の進め方と特に留意した事柄

本科目は複数教員が各自の専門分野を担当するオムニバス風の構成であるため、例年同様、全体像を常に意識しながら授業が進行するように留意した。コーディネータ（代表教員）は毎回授業を聴講し、

進行状況の把握と微調整を行なった。

授業スタイルとしては、全教員ともグループワーク・ディスカッションを主体とした授業となるようにした。

第 12 週～第 15 週は学生による個人発表にあてた。これは本授業のいわばキャップストーンである。発表の質を高めるため、昨年度より下記を行っている。

・発表準備が冬休み期間中にできるよう進行調整
・発表準備期間（＝冬休み期間）に先立ち、発表・引用のフォーマットを指導

また、発表後の質疑応答を重視し、活発な質問がなされるように誘導を行った。（発表＝相互対話の糸口である。一方通行にならぬよう質問を積極的に行おう／質問＝反応がないほど発表者にとってつらいことはない、等々を予め説明）

7. 学生の反応

全体的には良好であったと判断している。どちらかといえば実践的な技能・知識を紹介する回(「外国人に分かりやすい日本語」等)の反応が特に良好であった。

受講生の発表時、昨年にもましてインターネット上のデータのみを用いる傾向、また、単一サイトからのデータに依存する傾向が強まってきているように感じられる。どのように指導を行うか、今後の課題である。

関連し、自己研鑽と言うよりも単位取得のため、最低限の努力で済ませようとする学生の比率が増しつつあるように感じられる。単一ソースからの引用のみで済ませようとする／他の発表での指摘等を自分の発表に取り込もうとしない学生が目立ちつつあるのも、このような傾向の表れではないかと考えられる。

8. 到達目標の達成状況

全体的に、到達目標は十分達成できたものと判断している。ただし、対象受講生の多くが教育学部生であり、当該分野に対する関心や基礎的な認識を持っていたゆえかも知れない。

9. 今後に向けた展開

今期は担当予定教員のうち一名が転出したため、担当内容の調整に若干手間取った。次年度以降の担当を再検討する予定である。

全 15 週のうち、4 週分を学生個々人の発表(質疑応答、教員のコメント含む)に用いている。これだけの時間を割くことについては担当者自身悩むところであるが、他の発表と自己の発表とを比較する機会を得ること、また、発表の実践経験を積むことはやはり重要であると考えている。

ただ、今年度は先述の通り、発表・ディスカッションの成果を自分の発表にも反映させるタイプ／反映させないタイプに二極化した。後者のタイプをどのように指導すべきかが課題である。

昨年度より発表終了後に振り返りのためのミニレポートを課している（提出自由、提出者には加点）。1 年後期かつ 15 週という条件下ではあるが、このような自己省察／フィードバックのための仕組みをできるだけ組み入れたいと考えている。

10. その他（関連資料など）

科目番号：２０３１６　　科目名：現代社会の諸問題
担当教員：宮崎幹朗
開講時期：後期　月曜３限　履修者数：３０名

共通教育「創生授業」実施報告書

代表教員　所属　　地域創成研究センター
氏名　　宮崎幹朗

1. 授業データ

開講時期　：平成２３年度　後学期
時間割番号：２０３１６
科目名　　：現代社会の諸問題
授業題目　：地域学を学ぶ
履修者数　：３０

2. 授業の目的

地域社会が抱えるさまざまな問題に触れながら、それぞれの問題について自分で調べて考えることの大切さと他人の考えを理解しながらともに協力して行動することの大切さを学ぶ。

3. 授業の到達目標

自分自身でさまざまな問題に向き合う態度を身につけ、社会問題についての知識を得ることができる。
さまざまな人の話を適切に理解し、自分自身の考えを適切に伝える力を身につけることができる。
さまざまな社会問題への関心を深め、自分自身で考える態度を身につけることができる。

4. 共通教育の理念・教育方針に関わる項目（対応する項目をチェックして下さい）

□基本姿勢　□コミュニケーション力　□基本技能　□基礎知識　□基礎的思考力

5. 授業概要

地域社会に生じているさまざまな問題について自分自身で調べて考えていきます。
まず、自分が生活している地域がどのような場所であり、どのような特徴を持った場所なのかについて調べることを学びました。次に、地域に暮らす人々の生活に関する問題についてさまざまな観点から調べ、いろいろな人の話を聞きながら考えました。そして、自分が暮らしている地域のことをより深く知る方法を学びました。

6. 授業の進め方と特に留意した事柄

授業は３つの部分に分けておこないました。第１回～第５回は、地元学の考え方と地域を知る手法としてのまちあるきについて説明し、グループに分かれて大学の周辺でまちあるきを実践し、見聞きしたことをもとに地図を作り、グループごとに発表してもらった。第６回～第１０回では、地域社会が抱える問題を全員で考えてもらい、その中から５つの問題を選び、グループで調べてもらい、その結果を発表してもらった。第１１回～第１４回では、地域活性化に住民主体で取り組んでいる地域の活動をビデオで見てもらったほか、実際に伊予市双海町での行政と住民が一体となって取り組んでいるまちおこし

活動について話を聞いてもらい、それらをもとに話し合うなどして、地域のために主体的に取り組むことの大切さを感じてもらった。第１５回は、それまでのまとめとして、自分自身で調べて考えることの大切さを理解してもらった。

毎回、授業の最後に感想や意見を書いてもらい、学生自身で授業を振り返ってもらうことに力を入れました。また、グループでの調べごとや話し合いの機会をつくり、学生自身が自分の考えを言う機会を作るように心がけました。

7. 学生の反応

ふだんの授業ではしないまちあるきについては楽しみながら参加できたということで良い反応があった。また、地域社会の活性化の問題や格差社会の問題に真剣に取り組んでいる人の話を聞いて、自分が今まで気づかなかったことがあるということを知り、これからいろいろな問題について考えていきたいという意見が多く、今後の学習への刺激となったようである。少人数でグループに分かれて、まちあるきをしたり、調べものをしたり、話し合ったりしたことで、多人数での授業とは違って、自分たちが授業に参加しているという気持ちを持つことができたという感想があった。

8. 到達目標の達成状況

おおむね達成できたと評価している。

9. 今後に向けた展開

今回の授業で十分に達成できなかった点として、積極的発言が少なかった学生がいたことがあげられる。グループでの議論についても、遠慮している学生もいた。できるだけそういう学生も議論に加われるように、教員側の工夫が必要であった。

10. その他（関連資料など）

特にない。

科目番号：２６３６０　　科目名：現代と科学技術
担当教員：東山　陽一
開講時期：後期　金曜２限　　履修者数：１１名

共通教育「創生授業」実施報告書

代表教員　所属　　工学部
氏名　　東山陽一

1. 授業データ

開講時期　：平成　23　年度　後　学期

時間割番号：26360

科目名　　：現代と科学技術

履修者数　：正規登録３名，日本事情Ａ２からの移籍８名（単位は日本事情として認定）

2. 授業の目的

地域に存在する安全性と危険性を学ぶ.

3. 授業の到達目標

１．大学内の安全性を点検できる.

２．生活地域の危険と安全を理解できる.

３．歴史的な観点から地域を理解できる.

4. 共通教育の理念・教育方針に関わる項目（対応する項目をチェックして下さい）

■基本姿勢　□コミュニケーション力　■基本技能　□基礎知識　□基礎的思考力

5. 授業概要

家庭内，大学構内，地域社会において正常な日常生活を送っている場合，差し迫った危険が襲いかかることはほとんどない．怖いものを指す昔から言われている言葉に，’地震，雷，火事，親父’がある．今，親父は権威が落ちてしまっているが，残りの’地震，雷，火事’は科学が発達した現代社会においても今なお恐れられ，それに対する対策（防止，回避，制御，鎮圧）に多大の経費，人材を投入している．歴史的観点を踏まえながら，これらが地域社会とどのように関わりを持っているかを学ぶ.

（概要）

大学内外の設備，施設を徒歩により訪問し，歴史的観点からその成り立ち，変遷を学ぶ.

6. 授業の進め方と特に留意した事柄

１．すべての授業に教室外で行った.

２．学外で行うときの自転車での安全移動.

３．科学技術は歴史でありその変遷の具体的な事象を体験すること.

7. 学生の反応

１．身近にあるが今まで見逃していたところが多数あった.

２．既に行ったことがある所でも視点を変えると新たなことが分かった.

8. 到達目標の達成状況

学生が対象を見る，考える，見解を持つことができた（学生のレポートより）.

9. 今後に向けた展開

授業テーマを約２０件用意し毎年半数を前年と異なる授業を行うようにしている.

自転車移動の制約の中でさらにテーマを増加させたい.

10. その他（関連資料など）

無し.